神戸の歴史を学ぶ

中央区歴史トリップ！-先史・古代-

姫路獨協大学副学長・神戸深江生活文化史料館副館長　道谷　卓

■はじめに―中央区概観―

・中央区→1980（昭和 55）年 12 月 1 日、旧葺合区と旧生田区が合併して誕生！
（都心のドーナツ化現象による人口減少で、政令指定都市としてははじめて、合区による新しい区を発足させる）
・神戸市九区の中央部分に位置する区、古来、摂津国に属していた
・六甲山地と大阪湾に挟まれた傾斜地に東西約５㎞、南北約９㎞を擁した区域。
・北は六甲の山々を隔てて北区と、東は灘区と、西は兵庫区と接する
・神戸港の大部分は中央区、神戸初の人工島・ポートアイランドが堂々と浮かぶ！

・昭和時代後期から平成のはじめ、大都市のドーナツ化現象による都心部の過疎化で、約 11 万 5,000 人に減少、全盛期は 1960（昭和 35）年の 17 万 8,000 人
→近年の都心回帰により、合区 40 年の 2020（令和 2）年には 14 万 3,000 人に回復
・昼間人口は定住人口の倍以上にあたる約 30 万人→中央区は行政、経済の中枢を担う街として機能

・中央区：葺合区と生田区が合併→旧生田川（現フラワーロード）が区境
＊葺合＝摂津国菟原郡　＜旧生田川＞　生田＝摂津国八部郡
・中央区発足＝歴史的に由緒ある葺合、生田の名が消滅
→現在、区民センター、警察署、学校などの名称に残る
葺合、生田時代の残照を残しつつも、中央区は統合された一つの区として飛躍！
・1995（平成 7）年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、阪神・淡路大震災　発生
→震度７の激震地を区内に持つ中央区は多くの被害を出す
・中央区誕生 40 年を機会に、街の歴史を振り返り、中央区の現実を把握し、今後の中央区のまちづくりの一つの指針として過去を見つめ直すことが必要になる

■先史時代―埋葬遺物から辿る先史時代の中央区―

①先土器時代（1 万年以上前）

・先土器時代（更新世）遺跡は発見されていない

＊周辺（明石人、兵庫区会下山遺跡）ではいくつかの先土器時代の跡が見つかる

②縄文時代（約 1 万年前～約 2500 年前）

・宇治川南遺跡（橘通 1～3 丁目）：

各時期の多種の縄文式土器が多量に出土（最も古いものは早期）、晩期土器とともに出土した土偶・石棒、大分県姫島産黒曜石が晩期土器に伴って出土

・雲井遺跡（雲井通 6 丁目、現・サンシティビル）：

前期の屋外炉 4 基、後期の集石遺構一基、縄文式土器

・二宮東遺跡（二宮町 1 丁目）：

早期の土器

・熊内遺跡第 3 次調査（熊内橋通 7 丁目）：

早期前半の竪穴住居、早期押型文土器、晩期の摩滅の少ない土器片

③弥生時代（約 2500 年前～2・3 世紀）

・布引丸山遺跡（葺合町、布引砂山の麓、徳光院墓地付近）：

中期の土器が多数発見

→紀元頃、この地に人が住み、稲作が行なわれていた

＊標高 140 ㍍⇒六甲山南麓の丘陵上に点々とする高地性集落の一つ

・雲井遺跡（雲井通 6 丁目）：

中期の方形周溝墓 6 基発見、周溝の中の供献土器、埋葬された木棺

・宇治川南遺跡（橘通 1～3 丁目）：

前期の土器が出土

・熊内遺跡第 2 次調査（熊内通 6・7 丁目）：

後期の竪穴式集落跡（直径 10 ㍍、深さ 40 ㌢の円形竪穴住居）、住居跡には多くの弥生式土器、集落間抗争に使用されたと思われる武器の類（鏃＜両側のとがった部分を二つずつ持つ＞・投弾・球形の石など）

・熊内遺跡第 3 次調査（熊内通 7 丁目）：

後期の土器が多数出土

・阪神・淡路大震災で倒壊した神戸栄光教会（下山手通 4 丁目）の再建時：

弥生時代の絵画土器（県内二例目）発見（高坏形土器の脚の部分で、魚の絵が描かれる）

④古墳時代（3 世紀後半～７・８世紀）

１）前期（3 世紀後半～4 世紀末）：竪穴式石室、個人墓

・これまで中央区では知られていない

２）中期（4 世紀末～5 世紀末）：竪穴式石室、個人墓、古墳が巨大化（前方後円墳）

・脇浜乙女塚（脇浜町３丁目）：昭和の初めまではまだ封土を残す、前方部を東に向ける前方後円墳、出土品などは不明

＊『大和物語』の「菟原処女伝説」と生田川

３）後期（5 世紀末～７・８世紀）：横穴式石室、家族墓、群集墳

・割塚古墳（割塚通１丁目）：横穴式石室を持つ大円墳

＊＜言い伝え＞

豊臣秀吉の大坂城築城の際、大きな石材が必要なためこの古墳の石室の巨石が大部分運び出され、封土はその時壊され、わずかに二個ずつの大石と内部に落ち込んだ蓋石を残すのみとなり、これが割塚の名の由来になったという。

・中宮古墳（山本通５丁目）：横穴式石室、直径約 30 ㍍の前方後円墳、刀・金環・玉・鉄製品などが出土

＊付近に「古墳碑」（1917（大正６）年８月建立、古墳の様子などが刻まれる）

・黄金塚（山本通５丁目）：善照寺西隣の市有地に封土が現存、中宮古墳の陪塚と考えられる。

・三本松古墳（北野町２丁目）：南に開口する横穴式石室を持つ

・差方塚：戦前までは民家に並河誠所の建てた「差方塚」の碑があったが、戦争で焼失

■古代―生田の森・布引の滝などの景勝地で知られる律令体制下の中央区―

①ヤマト政権時代

・ヤマト政権の国土統一（3 世紀～6 世紀）

・ヤマト政権に組み込まれた中央区近辺の豪族（815 年『新撰姓氏録』による）

1）布敷首（ぬのしきのおびと）：旧葺合区あたりを支配、葛城襲津彦命の子孫だと言われる豪族、「割塚の碑」に「布敷首之霊地」の文字が刻まれた石碑（割塚が、布敷首の塚ではないかと言う伝承）

2）生田首（いくたのおびと）：旧生田区あたりを支配、天児屋根命（藤原氏の祖と言われている）の子孫だと言われる

・区内の古墳→これらの豪族の手によるものでは？

②律令体制の下で

・大化改新（645 年）、大宝律令（701 年）⇒律令体制へ（国－郡－里＜郷＞制）

・律令体制下の中央区

＜摂津国＞

〔八部郡〕					〔菟原郡〕								
		生			布		天		住		賀		夙
宇	神	田	生		敷	津	城	覚	吉	佐	美	葦	
治	戸	郷	田		郷	守	郷	美	郷	才	郷	原	川
郷	郷		川			郷		郷		郷		郷	

＊布敷郷（旧葺合区一帯）

生田郷（のちの生田村・生田宮村あたり）

神戸郷（のちの神戸村から城ケロあたり）

宇治郷（今の宇治川、宇治野山などに地名を残す旧生田区西部）

・旧生田川の流路の変遷（生田町が旧葺合区域にあるのはなぜ？）

＊『和名抄』（10 世紀）で八部郡に属している生田村（当時の生田郷）

→後世、生田川の東にあり菟原郡に属している

∵『和名抄』当時、生田川が生田村の東を流れていたからではないか！

・生田郷と生田神社

⇒生田郷＝古の「活田長峡（いくたながお）」のこと

→『日本書紀』の神功皇后が朝鮮出兵の帰途、稚日女尊を祀った「活田長峡国」のこと、これが生田神社のはじまりと言われ、その時祀られた地は砂山（丸山）だったが、後に洪水で社が流され、現在の地に移ったと伝えられる

＊松の嫌いな生田の神様

生田の神は砂山に祀られていた時、山一面に松の木を茂らせていたが、洪水で流されそうになったとき、茂らせた松が全く役に立たなかったので、それ以来松を嫌うようになったという、今でも生田神社は正月には「門松」を立てず、「杉飾り」を立て、境内の生田の森には松が一本も生えていないとのこと

・旧葺合区南半分の区画→条里制の遺構として顕著な例

③奈良時代・平安時代

・延喜式内社

⇒延喜式（927 年、律令の施行細則）に記載のある神社

→中央区では、八部郡の生田神社

・その頃の人口

⇒『摂津国大計帳』（1120 年）によれば、

菟原郡	４３７戸	１５，６９５人
八部郡	５９７戸	２２，１４５人

・荘園の出現→平安時代末に区の西部に平家領の「福原荘」形成

・山岳信仰の発展→再度山大龍寺（真言宗、空海）

・山陽道と名所旧跡

⇒山陽道：京と九州の大宰府を結ぶ主要幹線道路、中央区の海岸近くを走り、多くの貴族たちが中央区付近を通り西国へ

＊布引の滝、生田の森、若菜の里→京都の貴族がしばしば訪れた名勝で、多くの和歌が詠まれる

区制 40 周年記念事業　中央区歴史講座／中央区役所／令和３年３月 19 日収録